

偉大な足跡

昭和三十八年六月、本会の母体となった「クエゼリン島戦歿者遺族会」の創立総会から数えて、既に十八年の歳月が経過しております。

この間に本会もマーシャル・ギルバート諸島方面の戦歿者遺族のご参加によって、会の名称も「マーシャル方面遺族会」となり、広大な南太平洋方面で散華された三万有余柱の英魂の慰霊に祭事をつとめ、更には遺骨収集、慰霊碑建設、又ここ数年前よりは遺族の現地参拝にと、ひたすら創立当初の目的実現のために活動の歩を進めて居ります。

又毎年二月の慰霊祭につづいて行われる有志による「直会」旅行会も、回を重ねるにつれて、会員同志の親睦を深め、英霊を絆として会の結束は益々かたく、遺族会としての本来の姿を堅持しながら発展しておりますことは、誠に御同慶の至りであります。

これは、会員皆様の心からの御協力と、歴代会長始め役員各位の御尽力によるもので、会員の一人として深く感謝しております。

特に、第一回慰霊祭(二十年祭)の故林初代会長のご挨拶にありますように、本会創立以前から、戦歿者及びその遺族の調査、名簿作成、連絡のための印刷発送等、あらゆる基礎準備を個人的犠牲と慰霊の心一途に奉仕される氣持でやりとげられました浮田現会長御夫妻、佐藤現副会長



マーシャル方面遺族会
(旧クエゼリン方面戦歿者遺族会)
郵便番号 154
世田谷区野沢 3-11-3
電話 東京 (424) 4300
振替口座東京 0-93487 番
編集兼発行人 佐藤宗丕

の真摯なご努力には、本会が永続発展すればする程、播かれた種子の有意義、その偉大な足跡を改めて痛感し、心から尊敬し、感謝致しております。

また永年にわたって、事務処理その他すべてを一手に引受けて、少しの遅滞もなく正確かつ精密に処理されて居られる安藤事務局員の、遺族に優る慰霊と奉仕の御努力も、その現場を見られればお分りの通り、誠に頭の下る思いで一杯であります。

会が永続発展するにつれて、私達会員の年齢層も共に変わって参ります。当初は、戦歿者の父母が中心であったと思えますが、現在では、妻や兄弟姉妹、更には子供と言うように構成層が変わって来て居ると思えます。

本会の目的が、戦歿者の慰霊にあることから、この精神は世代が変わっても、変ることなく継がれてゆくことと思えますが、時代とともに「マーシャル」での戦闘が遠くなくなってゆくことは否めません。悲しく淋しいことですが、現実の問題として、それが自然であるのかも知れません。

しかしながら、激しい戦闘に身を抛って護国の任に散った英霊を想い、又、前述のように、浮田会長始め皆様の創立以来の御気持や御努力、更には現会員総員の御協力と信頼……………。これらの事を思うと、本会の姿を永く永く続けて、世代が変わっても精神と活動は変ることなく継承される事を願ってやみません。



副会長 橋 口 昭 利

目次

- 偉大な足跡……………橋口 昭利……………1
- 慰霊祭・総会・直会……………荒木 常子……………2
- ……………十二 徳次……………3
- ……………松下 龍二……………3
- ……………山田 政雄……………2
- ……………会員の便り……………山田 政雄……………2
- ……………お悼み申し上げます……………浮田 信家……………4
- ……………浮田 信家……………4
- ……………浮田 信家……………7
- ……………浮田 信家……………9
- ……………秋葉山丸……………浮田 信家……………9
- ……………事務局だより……………浮田 信家……………10
- ……………寄付者芳名……………浮田 信家……………10
- ……………戦記シリーズ……………浮田 信家……………10

慰霊祭・総会・直会旅行

荒 木 常 子

今冬は寒さが酷しく、昨年末より各地から豪雪の便りが届いていたので、二月六日の此の日を楽しみに各地からお集まり下さる皆さんの足が案じられてならなかった。

しかし英霊のお護りがあってか、当日は二月としては暖かな素晴らしい晴天に恵まれ、八時過ぎより一人、二人となつかしいお顔が靖国神社の控室に集まって来られた。昨年不参の方のお顔が見えるとホッと、又例年お馴染みのお顔が無い時はどうかされたかと心曇る思いであった。

拝殿参入の前に神職から手水の使い方と玉串奉奠、拝礼の作法を教えて頂く。その通りやってみて作法とは行い易く、効率的で、動きに無駄が無く動きそのものが美しい事が良く判った。

昇殿参拝は例年の通り荘厳な神域の中で感激も新に各々英霊を偲んだ。

総会は浮田会長の御挨拶の後佐藤副会長が議長となって進められた。先づ会務経過の概要を浮田会長、決算報告(別紙)を木下幹事、監査報告を秋山監事から夫々報告され、異議なく承認した。ついで今年度の会務計画と予算案(別項)を浮田会長から説明あり、これ亦異議なく可決した。

次に、役員全員任期満了に伴う改選は次の他は全員再任された。

- 新任 副会長 橋口 昭利
- 同 幹 事 三ツ木正次
- 退任 同 宇田川ヒサ
- 同 同 山浦 信子

議事を終了した後、松平宮司より御挨拶を頂き、又篤志会員木ノ下甫様と佐藤副会長から「靖国神社法案」についてお話があった。

昼過ぎ、二台のデラックスバスは七〇名を乗せて靖国神社を後にする。今年の目的地は天女の羽衣の伝説で名高い三保の松原に程近い三保グランドホテルである。今年にはバス二台でゆとりある座席となり、又バスも車内でお湯を沸かしてお茶のサービスが出来る豪華な車で乗り心地も上々。美しい富士を眺めながら東名を順調にとぼし、途中清水次郎長、子分の大政、小政の墓

で有名な梅蔭寺を拝観してホテルに到着。夫々の部屋につろいだ後、広間で橋口新副会長の司会で、暖いお鍋を囲んでの楽しい宴会がくりひろげられた。例年通りお得意の踊りや歌が御披露されたのは言うまでもない。明けて七日も暖かい日和。まずホテルの目の前にある東海大附属の水族館



畑の中にあつた此の遺跡は今ではすっかり緑の芝生の美しい公園となつてその中に点在する古代人の住居跡を見学する。

そこから二〇分足らずで静岡へ到着、ここで西へ帰る方々とお別れしてバスは一路東京へ向つた。

こうして楽しい二日間の旅行を無事終了する事が出来た。又来年お元気なお顔でお会いするのを楽しみに、皆さんそれぞれに重いおみやげを手に各々故郷へ帰ってゆかれた。

会員の便り

東京 山田政雄

私の長男は、マインシャル群島ウォッゼの第六十四警備隊員として戦死しました。私は八十八歳になり記念の写真を撮りましたのでこれを長男の戦死したウォッゼに送りたいと考え、本日厚生省援護局業務第二課へ参り相談したところ、貴会の現地慰霊のことを教えて下さいました。

お話によれば本年七月頃、ウォッゼ迄は行けなくてもその近くには行けるとのことですが、どなたかにこの写真を近くの海面に浮かべて頂きたいおねがい致します。余命少ない老人の願いを叶えて下さい。(56・3・12)

第17期決算報告書 (自55. 1. 1 至55.12.31)

マーシャル方面遺族会

一般会計第18期予算

(自56. 1. 1 至56.12.31)

1. 一般会計収支計算書

<収入の部>

科 目	金 額
会費 (過年度分)	329,500
会費 (当年度分)	1,313,500
寄附金等	1,902,652
受取利息	508,791
雑収入	81,950
小計	4,136,393
前期繰越金	1,757,384
合 計	5,893,777

<支出の部>

科 目	金 額
慰 霊 費	85,040
運 営 費	1,745,310
刊 行 費	458,740
印 刷 費	10,710
通 信 費	118,519
事務所借用費	298,655
振替払込料	34,275
事務用品費	60,712
会 議 費	57,402
雑 費	93,530
特別会計繰入	1,000,000
退職金勘定繰入	100,000
小計	4,062,893
後期繰越金	1,830,884
合 計	5,893,777

2. 一般会計財産目録

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	208,233	前受会費	809,500
普通預金	194,642	預り金	818,600
定額貯金	3,000,000	小計	1,628,100
振替貯金	56,109	前期繰越金	1,757,384
		当期剰余金	73,500
		後期繰越金	1,830,884
合 計	3,458,984	合 計	3,458,984

<収入の部>

科 目	金 額
前期繰越金	1,830,884
会 費	1,300,000
寄 附 金	1,900,000
受 取 利 息	50,000
雑 収 入	50,000
合 計	5,130,884

<支出の部>

科 目	金 額
慰 霊 費	120,000
運 営 費	2,000,000
刊 行 費	700,000
印 刷 費	50,000
通 信 費	180,000
事務所借用費	350,000
振替払込料	50,000
事務用品費	100,000
会 議 費	150,000
雑 費	100,000
予 備 費	100,000
退職金勘定繰入	100,000
後期繰越金	1,130,884
合 計	5,130,884

特別会計収支計算書

1. 収入の部

前期繰越	1,500,000
一般会計より繰入	1,000,000
計	2,500,000

2. 支出の部

	0
--	---

3. 後期繰越

	2,500,000
--	-----------

退職金勘定収支計算書

1. 収入の部

前期繰越	400,000
一般会計より繰入	100,000
計	500,000

2. 支出の部

	0
--	---

3. 後期繰越金

	500,000
--	---------

二月六日の慰霊祭と直会旅行にお誘い下され誠に有難うございました。実は私49年から民生児童委員を拝命いたしておりもう七年目になりました。毎年二月初旬に全員の研修旅行があり、本年は丁度二月六日より南紀方面に行くことになりましたので誠に残念ですが参ることでできません。皆々様によりしくお伝え下さい。来年こそ是非参加致し度と思っております。

(56・2・5受)

静岡県 松下龍二

つきましては些少でございますが、会の通信費の一部にでも加えて頂けましたら幸いです。早殿参拝の時御本殿に座ると、いつも厳寒の北千島当時を思い出します。
ルオット島の先に転進した亡き戦友達が、早く暖かなルオットに会いよと言って飛び立った日のことが、61歳の今でも昨日のように思はれます。

暦の上では立春と申してもまだ寒い季節ですが、浮田会長様にはお元氣のことと思います。十数年前に浅間台小学校に靈砂をお迎えして以来二月六日には一度も休まず参拝してきた私ですが、今年はお父(91歳)の看病の為、後日折をみてお詣りいたします。

川崎市 十二徳次

謹んで朝香鳩彦名誉会長の

御永眠をお悼み申し上げます

会長 浮田信家

本会名誉会長朝香鳩彦様（元皇族、陸軍大将）が本年四月十二日午後十一時四十五分、御老衰のため静岡岡県熱海市水口町五の五一の御自宅で御永眠遊ばされました。御年九十三才と承知いたしました。御年九十三才と承知いたしました。御告別式は十七日午後二時から東京都文京区大塚の豊島岡墓地参集所と聞きまして、私と佐藤副会長が参列致しました。御在世中の御指導を感謝申し上げ御冥福をお祈りして退下いたしました。

に至るまで長きに亘り直接ご指導をいただいて参りました。お住居が熱海であつたため御用件あつてご上京のときにご機嫌伺いかたがたご指導いただきにあがりました。厳格の方と承っておりましたが、私共にはいつも父の如く温情あふれるお取扱いをうけ、お目にかかると誠に楽しみでありました。

○御略歴

朝香鳩彦様は故久邇宮初代朝彦親王（一乘院宮・青蓮院宮・中川宮と幾度か御改称遊ばされた方）の第八王子として明治20年10月2日御誕生、同39年3月31日朝香宮の御称号宣賜によって新に宮家を創立された、後の朝香陸軍大将の宮であります。奥様は明治天皇の第八皇女として明治24年8月7日御誕生の富美宮允子内親王でありました。昭和8年11月3日薨去されました。



二十年祭に、祭文を奏上される

朝香名誉会長

(39・2・6 靖国神社)

れました。終戦時には、停戦の「大命」を伝達のため中国に特派されました。昭和22年10月新皇室典範の施行に伴い皇籍を離脱されました。

○慰霊碑建立場所決定時の経緯

昭和40年頃から現地に忠魂慰霊碑建立の議が生じ、完成予想図を添えクエゼリン司令官宛提出していた。翌41年秋司令官部から「現在ある日本人墓地は巨大なレーダー装置に囲まれ、更に次々に重要な施設が増設されようとしている。従ってクエゼリンには外国人の出入りがきびしく制限されている。折角の慰霊碑だから誰でも出入りできるマジユロに建立されたらどうですか。実は当司令官部から非公式にマジユロ政府に打診したところ、歓迎する旨内諾を得ています」という誠意のこもった回答を得ました。林会長以下役員一同鳩首協議の結果名誉会長のご意見も伺うこととし林会長と私が朝香名誉会長のご上京のとき迎賓館にお伺いし御説明いたしましたところ即座に、

「参拜できるできないでなく最も多くの霊の眠るクエゼリンに建立すべきでそれ以外の地なら建てない方がよいのではないか」との御意見でした。

会長以下多くの役員もこの方向でしましたので「クエゼリン島」ということになりました。

早速この結論に添って司令官に申し入れました。六カ月のひまはかかりましたが翌42年3月建碑許可の電報を受

け43年暮建碑が完了いたしました。

○御二男音羽侯の人事

記念艦三笠艦長

福地 誠夫

クエゼリン環礁が玉碎の当時私は海軍省人事局局長で少佐・大尉を受持つて居りましたので侯爵音羽正彦参謀の人事を担当して居りました。これは今日始めて公の席でお話を致すのでありますが、戦勢次第に險悪となることを予想された時機に、音羽参謀を他の配置に転勤して頂く案が検討されたことがありました。この事を仄聞された御父君の朝香宮鳩彦王殿下が人事局長に對して

「この時機に音羽を第一線から下げるとは以ての外である。そのような心遣いは一切相ならぬ」ときびしく仰せられたと承っておりま

す。誠に有難い感激に充ちた御言葉と当時誠に深い感銘を覚えた次第であります。

私は昨年の靖国神社における本会の二十年祭にも参列させて頂き久しぶりに朝香宮殿下の御姿を拝し、当時のことを思んだのであります。

○会員一同心からご冥福をお祈り申し上げます

数多の想い出を掲載させていただいて御恩に對し厚く御礼申し上げますとともに永く御冥福をお祈り申し上げます。

マーシャル諸島情報

マーシャル・アイランズ・ジャーナル紙より

英霊の眠るマーシャル諸島は今迄は大層遠い所であって、行きたくても行けない島でしたが、今では大勢の方々が多層参りに行き、又島の要人や住民が度々日本を訪れる至極近い島になりました。

本号から

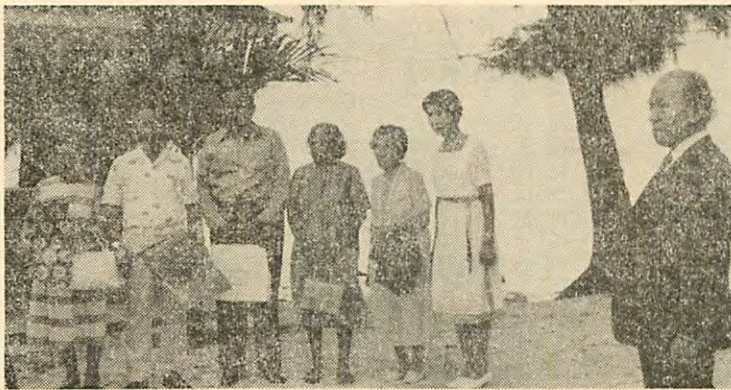
☆12月12日号より
ボニー・スカウトのそうじ
〔マジュロ発・12月6日〕
マジュロ・コープ・スクールのボーイ・スカウトの子どもたちは今日ローラ岬の公共清掃事業に参加した。
彼らは40袋のアルミニウム缶を集めまた可燃物は燃やした。清掃後には大きなたき火が燃え上がった。
スカウトリーダーのトロイ・ペーカ1氏とジム・モリセイ校長および20名の少年たちが参加した。
☆12月19日号より
ドワイト・ハイネ氏引退

浮田会長の購読しているマーシャル・アイランズ・ジャーナル紙の一部を転載して、会員の皆さまに現地を知る資料にして頂くことに致します。
(翻訳は 山口良二 会員II故 古賀正太 様の甥II の奉仕によるものです)

〔サイパン発・12月11日〕
信託統治政府において長い経歴を持つ二人、最高顧問のドワイト・ハイネ氏と教育局長のデビット・ラマウイ氏がそれぞれの出身島の若い人々の為に政府を離れることとなった。この記事は12月10日付のパンフィック・デイリー・ニュースによる。
ハイネ氏(64歳)は一九四四年のマーシャル諸島米海軍行政部の通訳官を振り出しに以来36年間政府主要ポストを歴任し、今度引退することとなった。
ハイネ氏は最初づくめの人であつ

た。彼はミクロネシア人で最初の大学卒、最初のミクロネシア人の地方教育局長、行政局長、ミクロネシア協議会の議長、そしてミクロネシア議会の発言者。

ハイネ氏の語るところによると、近い将来、自伝を書くそうである。また政府批判はしないとの事である。またハイネ氏は月に44ドルの通訳官として、政府での経歴を始めた。一九五四



中央ドワイト・ハイネ様御夫妻 (53・9・2 サイパンで)

年には彼は師範学校を設立するためにマジュロへ渡った。
一九四八年、高校卒業資格のないハイネ氏であったが、ハワイ大学に受け入れられた。この当時の信託統治政府の政策は学生を政府の奨学金によって2年間学ばせ、帰国して1年間働き、そしてまた学業に戻るといふものであつた。

ハイネ氏はマジュロに戻り、マーシャル・インポート・エクスポート・カンパニー(MIECO)に参加し、そして後に社長にもなった。
彼は後にマーシャルのブレジディン・グ・ジャッジに任命された。この地位を彼は無給で勤めた。

ハイネ氏はハワイ大学へ戻り、そこで彼はROTC・体育学そして農業・家畜を専攻した。

マーシャルへ戻って彼は学校で養鶏を教える事を試みた。しかし生徒たちは鶏を盗みそして食べてしまったが、彼はあきらめず教育局において努力を続けた。注(1)

パンフィック・デイリー・ニュース紙によると、一九五〇年代はじめにマーシャルで行なわれた核実験の被害者の窮状を国連に訴えたために、教育局長の地位を失なつた。注(2)

しかし先の行政局長メイナード・ナース氏はハイネ氏を復職させた。
一九六〇年にはハイネ氏はマーシャル諸島議会議員に選ばれ、そして副大

統領となり、行政府における彼の仕事を
はじめたのだった。

注(1) 氏の努力によってか、マーシャルの
人々は鶏肉が大変好きなようであり、養
鶏場もあるようです。

注(2) 現在マーシャル諸島住民により、
「マーシャル諸島核実験訴訟」として十
数億ドルに上る損害賠償請求が米國に対
して行なわれている。

ウートロック空港開港

〔ウートロック発・12月11日〕
マーシャル航空によると新しいウー
トロックの2千9百フィートの滑走路
が完成した。

マイク・カベル氏(パブリック・サ
ービス・コミッション)とブライアン
・ゼエプティ氏(資源開発次官補)が
初着陸後の式典に望んだ。

ウートロックへは1月中旬より定期
便が就航するが、それまでは必要に応
じて特別便が運航される。

ミレ島で空港建設はじまる

〔マジュロ発・12月18日〕
資源開発省スポークスマン発表によ
ると、LCUは昨日ミレ島に到着し
た。

そして建設作業は完成まで2カ月を
予定している。次の開港予定地はヤル
ートである。

☆1月9日号より

ミレ空港、37日ぶりに再開

〔マジュロ発・1月6日〕
ミレ環礁の空港の滑走路の一本が完

成した。アリ・アrik議員(ミレ選
出)は先週マーシャル航空でミレへ渡
った。ほかの千フィートの滑走路は別
の滑走路として完成される。

空港全体が完成した時にはエア・マ
イクロナシアのようなジェット機が着
陸可能になるとアrik議員は声明し
た。

またアrik議員は日本の旅行者の一
行が第二次大戦中ミレで戦死した日本
の戦歿者の慰霊のために、今月ミレを
おとずれると述べた。

これらの話には別の説がAMI(エ
ア・マーシャル・アイランズ)のマネ
ージャー、エロール・ドラトバー氏に
よってとなえられている。氏は一九四
四年以来のパイロットで正月元旦の飛
行も勤めた。彼は3千フィートの誘導
路を完成するために爆弾の穴をふさ
がなければならぬと語った。

☆2月6日号より

日本政府150万ドル相当の資材供与

〔マジュロ発・2月3日〕
今朝マーシャル政府外務省のトニー
・デブルム次官は報道関係者に対して
近い将来日本政府が150万ドル相当の建
設用資材をマーシャル諸島に対して供
与することを明らかにした。

これらの資材の大部分は50トンフォ
ークリフト、発電機および10万ドル相
当のスペアパーツを含めて離島各島の
振興に使われる。

この供与は3月中旬から下旬にかけ

ての交渉によるとデブルム次官は語つ
た。これらの資材は資源開発および公
共労働の各省が取り扱い、デブルム次
官が監理する。

日本政府の本会計年度における本来
の供与は、マジュロ、クエゼリンへの
衛星通信地球局(地上受信施設)であ
ったのだが、これはアメリカにより拒
否された。注(3)

デブルム次官はコムサットはマジュ
ロへは一九八一年十二月までに、クエ
ゼリンへは一九八二年三月までに、イ
ンテルサットB地球局を設置するであ
ろうと語った。契約期間中アメリカ政
府は通信システム設置費用および運用
技術を供与する。

日本政府代表団は数カ月以内に、日
本の次会計年度における別のプロジェ
クトを協議する為に到着するであろ
う。

今度の協議ではマジュロの海峡に小
さなボートが通れるような橋を建設す
ること、マイクロナシブの整備、ウォ
ッゼ、ヤルートのような離島の漁業関
連地上施設が協議されるようである。

以上、デブルム次官による。
日本政府は今後5年以内にこれらの
援助を行なうであろうと同次官はつけ
加えた。日本政府との漁業交渉におい
て、最後に残った問題は、入漁料につ
いてである。日本政府は110万ドルを提
示してきたが、マーシャルは130万ドル
で交渉している。

昨年の入漁料は90万ドルだった。
協定の補助的な同意の見通しについ
て尋ねたところ、同次官は遅くとも3
月の終りまでには交渉が終ることを期
待しているとのことだった。注(4)

注(3) 同プロジェクトの内容はマーシャ
ル、ボナベへ各一基の衛星通信地球局を
設けるといふもので、一基当たり付帯設
備を含めて七億ドルであった。昨年6月に
は国際電信電話会社の技術者2人が現地
調査を済ませたのだが、米議会内に「通
信は軍事関連施設であり、第三国の手に
ゆだねるわけにはいかない」との考えが
広まり、アメリカ政府が設置することと
なった。東京新聞1月10日付夕刊によ
る。

注(4) 3月下旬にカサイ・ノート大臣、ト
ニー・デブルム次官はじめ一行6名が来
日し、日本政府と協議の上、3月25日漁
業協定が締結された。

漁業協定は入漁料が100万ドル、機材供
与が3千5百万円相当、操業する日本漁
船は40隻で4月25日からすでにマーシャ
ル政府発給の許可書が操業に必要となっ
ている。期間は1年間である。また同時
に3億円(150万ドル)の無償供与も決ま
った。



本年初頭現地からの訪日客

会長 浮田信家

昨年末から四月にかけて多数のお客さんが来訪されました。できるだけ本会々員とご一緒に談合の機会を設けました。

○クエゼリン 徳原様ご夫妻、12月29日から1月11日まで、主として京浜地区旅行。

○クエゼリン 中田様ご夫妻、1月4日から9日まで山口県田布施地方旅行。

○クエゼリン 大里様ご夫妻、4月5日から4月21日まで、熊本、九州地方旅行。

○マジュロ カサイ・ノート様、トニー・デブルム様、タカオ・ドミニック様、1月23日から31日まで公務。

徳原様、中田様、大里様御夫妻は既に幾度も訪日されており親しみも深く、日本からも毎年のようにお邪魔しておりますので御礼を申し上げ更に今年はマーシャル方面に16名の会員がまいるマジュロに三日、クエゼリンに二日泊らせていただく予定にしていますので従来にも増してお世話下さいますようお願いをいたしました。

一月二十八日にはカサイ・ノートさん、タカオ・ドミニクさん、トニー・デブルムさんを東条会館にお招きし、

本会々員20名と夕食を共にしました。はじめに私から次のようなご挨拶をいたしました。

「御多忙短時間な日本滞在中をお揃い御出席下さいましたことを厚く御礼申し上げます。カサイ・ノートさんが、まだ十一歳の頃、私と佐竹幹事が始めてマジュロに行つたのです。一九六七年の五月二十六日でした。流行病



徳原様御夫妻

の最中でクワランティーン令が出される一般の島民の方は勿論要人の方々すべて在島しておられました。そして二、三日たった六月一日にマジュロ高校の卒業式の日角帽をかぶり嬉しそうでした。どの卒業生もお俐巧そうなお顔であつたことを今だに忘れません。マーシャルが独立することを伺い、あの時のあの方が今はマーシャルの中心になつておられお三人のご様子を目のあたりにして誠に頼母しく存じます。始めてマジュロの土を踏んだ私たちは立派な青年の多いことに気づき、その後日のたつにつれ純真な親切なことをつくづく感じました。実はお近くのクエゼリン島には去る大東亜戦争中同島で戦死した日本軍約八千人の遺骨が葬られ現在米軍によって鄭重に祀られております。マジュロ環礁も何れいつかはエニウェトクのようにマーシャル共和国に返還されるであります。そのときはどうか英霊が安らかな眠りをつづけられるようお願いいたします。十数年前、半年もの間親身も及ばないご芳情の御礼を申し上げたく御招きした次第でございます。現在両国間の固い友情をつづけてゆけますようお願いいたします。」

つづいて三氏からそれぞれ次のようなおご挨拶があり三ッ木正次幹事が通訳して下さいました。

資源開発大臣 カサイ・ノート様 本夕は私どもをお招き下さされ、厚く

お礼申し上げます。

遺族会の方々がマジュロ島始め、マーシャル諸島に來られたとき、島の人々がなされたことに対し、会長より先刻、お礼の言葉を頂き恐縮に存じております。会長は、またクエゼリン島にある日本人墓地が未永く維持されるよう希望を申し述べられました。現在墓地は芝が植えられ、いつも清く保たれております。私どもと致しまして、この状態が続いて参りますよう、力を尽したいと存じております。私ども来日以来主として日本政府の色々の方々とお会いして参りましたが、それは友好の維持と発展に向けてのことでございます。

外務次官 トニー・デブルム様 私は先日ワシントンで行なわれた新大統領レーガン氏の就任式に政府の一員として参加し、このたび来日しまし

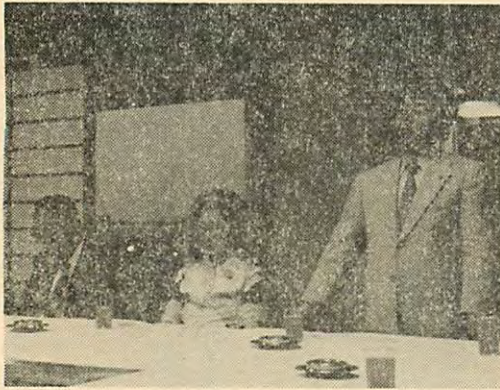


中田様御夫妻

た。私としましては、マーシャル諸島と日本の相互に有益なことを拡大し、実行して参りたいと存じております。その為にはこれまでの友好関係をさらに強め、新しい関係をも築いて行くこと、それには単に産業についてはばかりでなく、社会的、文化的な触れ合いを強め友情を培って行くことが必要です。マーシャル諸島では日本精神が今も生き残っており、それは単にお年寄りについてばかりでなく、若い人々についても言えることです。

今年の一月一日からマーシャル諸島にはマーシャルの旗が掲げられることになりました。

私どもの仕事のうちには、アメリカとの間のいろいろな政府間の交渉が含ま



向って左から、大里様御夫妻

まれておりますが、会長が先刻申されたことの実現に向けて努めるつもりであり、そのうちの或ものは、あるいは思っているよりも早く実現されるかも知れません。

公共土木省事務官(タカオ)

チャリー・ドミニック様

今夕お招き下され有難う存じます。私も今お二人が申されたように、相互の交歓を通じ、友好関係を確立することを願っております。

私は現在の職に就きまして二カ月半ばかりになりますが、その間一度、クエゼリン島の日本人墓地にお参りしたことがあります。その時案内してくれた人は「ここに一人の日本人が眠っている」と申しましたが、只今会長のお話を伺いますと、約八千人の霊が祀られているとのことで非常に驚いた次第です。もし皆様が戦死された方々のお骨を集めたいとのことであれば、できる限りのことはしたいと存じています。もし今のまま現地で静かに眠らせておきたいとのことであれば、協力し合って神社を建立することが、八千の霊がここに眠ることを広く知らせるためにも有意義なことで存じています。

挨拶のあとの歓談で三氏は交々要旨次のように語られた。

「マーシャル諸島の教育はこれまで、英語でなされて来ましたが、マーシャル語を話せない子供達が成長する

に及び、従来のやり方を反省し、今では大部分の課目はマーシャル語で教え、一部の課目だけが英語を用いています。いはば英語が第二の言葉となっております。」

「マーシャル島のハイスクールの卒業生のうちには、ハワイばかりでなく



向って右から、

トニー・ブルム様

カサイ・ノート様

タカオ・ドミニック様

米本土のカレッジに行っている者もかなりおり、その数は毎年五十人か六十人位と思われます。そのある者はアメリカの、またある者はマーシャルの奨学金を受けております。」

「何分マーシャル諸島では日本語の教育が行われていませんので、日本への留学生は極めて僅かで、それも水産などの技術的な面に限られています。日本語を教える方は何もマーシャル語を知っている必要はなく、始めの六カ月位は教科書など一切用いず、一歩教室に入ったときから、日本語だけでやっけて行くのが優れたやり方だと存じます。」

「戦前マーシャル諸島では年間最高三九、〇〇〇トンのココヤシが生産されましたが、戦後最高の昨年ですら、八、〇〇〇トンに止まっています。また戦前にはヤルト島には、鑿節工場がありました。今はありません。今私どもが日本に期待しているのは、道路の整備、植樹等の機械設備の導入ということです。」

「マーシャル諸島への観光客の誘致につきましては、賛否両論が激しく対立しております。支配的な見解は、現状のまま観光客を誘致することは決して得策ではないが、いづれ観光客が来ることは避けられまい。それに備えて交通、電気、水道等の整備をはかることが必要であるということです。近日中にホテル建設の契約が調印される予

定で、日本の会社を含めた業者もホテル建設に関心を持っているものもあるようです。ただ高層ホテルに走ることなく、自然と調和したホテルにするという方向で、いろいろの制約を課することも必要で、またフィジー島に見られるように、観光区と自然のままにし

秋 葉 山 丸

会長 浮 田 信 家

「秋葉山丸」という船名を環礁に掲載したのは、前号がはじめてであるが、本会にこの船についての資料がなかったため要目の説明ができなかった。その後クエゼリン基地隊保管の資料から左の通り判明した。

竣工 一九二四年(大正13年)
船主 三井物産株式会社
造船所 玉造船株式会社
船種 貨物船
総屯数 四六〇三ト
長サ水際 三七五フィート
全長 三八九フィート
最大巾 五〇フィート
沈没 一九四四年一月三十日

ということを知った。沈没年月日から推察して、本船は大東亜戦争の際、海軍に徴備され、内地と戦地との間に人員や物資を運搬中クエゼリン島が玉砕の直前同島海岸至近のところで、敵の砲撃或は爆撃によって沈没のまま今日

ておく区域とを区分するやり方も参考になるうかと存じます。」

「近年ウオッセ、ミレ島など、主な島々には小型飛行機の発着できる飛行場が設けられ、残っているのはヤルート島位のもですが、これも遠からず開港できる運びとなっております。」

に至ったものと判った

沈没当時は戦死者の遺体や暗号書等の重要書類、乗員の私有品や食糧等も相当多量に積まれてあったろうが米軍の処理によって個人の遺品等は、既に散逸したものと思われる。

クエゼリン島駐屯の憲兵隊長陸軍少佐ミスター、ルッセル、イー、ホーランド氏は八月に遺族の現地墓参団の来島を予め承知していたので同隊のアンブローズさんと二人で、秋葉山丸に入り遺族の方々へ何か想い出となるものをと探して下さったが、ビールやサイダーの空ビン十数本ぎりしか探し得なかった。

これを司令官室に本会団員が表敬訪問にいったときホーランドさんから、「何か縁ある品物をお持ち帰りいただきたくて船内に入り探したのですが、空ビンしかありませんでした。せめてこれでも」といって団員にお渡し下さった

たそうです。

このような経過で十本のビンが本部に届けられました。

30年以上も経てビンの栓もぬけ、レットルもはがれた空ビンにすぎないがまづ船主の三井物産株式会社と玉造船所に経過を話して意向を求めました。これには何の反響もありませんでした。沈没から既に40年、竣工からだとも60年も経っているのですから無理がないかもしれません。

次に考えましたのは、乗員の遺族に呼びかけることでした。私が勤めたことのある海軍省人事局(現在の厚生省援護局)に戦死者の名簿のあるのを思い出し担当の方にお願して探して頂いた。幸運にもその名簿が間もなく発見された。秋葉丸の戦死者は佐藤浩船長以下54名であることが判った。この方々の御遺族には秘密保持上、戦死公報では戦死場所をお知らせしてなかった筈なので、遺族の方は肉親がクエゼリンで戦死した事は、全く知らずに今日に至ったわけでした。

そこで私はこの54人の御遺族に、戦死場所や現地墓参に行けることをお知らせしたくて次の内容の手紙を送りました。

「①はじめてこの手紙をあげるのですから私の氏名や今までのどんな経歴を歩いて来たかということ。②あなたの肉親の方は19年2月6日クエゼリン島で戦死されたということ。③昨日本会

の現地墓参員がクエゼリンにいったときクエゼリン基地の方が潜水して船から持ち上ったビンを持ち帰ったのでお望みの方に差上げますからお知らせ下さい」とい意味の手紙を送りました。

これによってホーランド様、アンブローズ様の御好意に報いたい一心でした。ところがこの結果54通の内15通は戻って来ました。私の方からお送りした宛先は40年前に戦死公報を送ったときの住所であったので戦災などで焼け出されたり既にお亡くなりになった方々だと思えます。残り40人の方のところには届いたと思うのですが御返事を下さったのは僅か四遺族だけでした。残り36人の方々はこちらからの手紙によって戦死した父或は子、或は兄がクエゼリンで戦死したことははじめてわかったがお役所からでないため不安心と思われたかもしれません。

四遺族の内戦死者米沢正次様の実弟飯島祐宣様は兄様の菩提を弔うため本年8月21日成田空港発本会のクエゼリン墓参団の一員として8月28日成田着で帰国されます。飯島様は現在東京都港区赤坂四丁目一の十、智剣山威徳寺(真言宗)の住職様であります。

威徳寺はまた一名赤坂不動尊と申しましたしまれております。

この環礁記事を通じ一人でも二人でもおよろこび下さる方が増えればと祈っております。

環礁ミレ一抄 (14)

成宮芳三郎

八重潮路別れ来ぬれば発つ朝に見返り合ひし眸おもほゆ

月は出ぬ黒きとばりをひき下し灯の下に妻の文よむ

(元66警ミレ一軍医長)

母を葬り 弟を想ふ

柿若葉 汝の征でしときめぐりきし

浮田桜代

事務局だより

暑さにもめげず皆様お元気のことと拝察いたします。役員の一部に異動がありました。以前にも増して一致協力して会務に当たっております。御支援と御協力をお願いいたします。会務の進め方、「環礁」の記事その他についての御意見を何なりとお聞かせ下さい。又「環礁」の原稿(近況、随想、戦地からの便り等)をお寄せ下さい。編集の都合による多少の手直しは予め御了承下さい。

◎今年の現地慰霊団は次の予定になっております。

○マーンシャル班 16名

8月21日 成田発一グアム一マジュロークエゼリン一サイパン一8月28日 成田帰着

○ギルバート班 10名(外にナウル1名)

8月25日 成田発一グアム一ナウル一タラワーナウル一グアム一9月4日 成田帰着

目的を果されてお健やかなお帰りをお祈りいたします。

◎「環礁」34号8頁4欄一頁目の「クエゼリン」は「マジュロ」の誤りでしたから訂正いたします。

寄付者芳名

(敬称略) (四三九名)

本欄に掲載の会員各位は、年度会費御完納の上の御寄付であり本会運営に寄与するところ多く役職員一同いつも感謝申し上げます。一層節約を旨とし本務遂行に事欠かぬよう留意致します。すので今後共御協力頂き度御礼と共に御願ひ申し上げます。(昭和55年11月1日から昭和56年10月31日までに入金の分)

篤志会員その他

二〇〇〇〇 クエゼリン島

北海道

一〇〇〇〇 進藤 進殿

一〇〇〇〇 大里 清殿

〇〇〇〇 松岡 実殿

〇〇〇〇 嘉村 栄殿

〇〇〇〇 桑 一殿

〇〇〇〇 鈴木 寅雄殿

〇〇〇〇 星川 武殿

〇〇〇〇 吉原 徳蔵殿

〇〇〇〇 恩田 寛次殿

〇〇〇〇 金子 英郎殿

〇〇〇〇 中村 正十郎

〇〇〇〇 矢崎 寧之殿

四九四〇 直会旅行参加者一同

三〇〇〇〇 井上 義夫殿

〇〇〇〇 江藤 圭一殿

〇〇〇〇 鈴木辰太郎殿

〇〇〇〇 高野 庄平殿

〇〇〇〇 土屋 太郎殿

〇〇〇〇 十二 徳次殿

〇〇〇〇 長野 留雄殿

〇〇〇〇 匿名殿

〇〇〇〇 松平 永芳殿

〇〇〇〇 木ノ下 甫殿

〇〇〇〇 福田 吳子殿

〇〇〇〇 珊瑚 会殿

〇〇〇〇 奥 清一殿

〇〇〇〇 城家平太郎殿

山形県

三〇〇〇 大場美津子

二〇〇〇 丹野 アサ

一〇〇〇 渡辺 ミノ

〇〇〇〇 赤塚 美正

〇〇〇〇 大泉 時子

〇〇〇〇 三浦 一郎

〇〇〇〇 富田 ミツ

〇〇〇〇 吉田 ハル

〇〇〇〇 石橋 サツキ

〇〇〇〇 石橋 節子

〇〇〇〇 馬上一 嶺雄

〇〇〇〇 吉津みどり

〇〇〇〇 若狭 明光

〇〇〇〇 大熊 もと

〇〇〇〇 宮内 はつ

〇〇〇〇 遠峰 軍治

〇〇〇〇 堀江 誠一

八〇〇〇 増沢カオル

三〇〇〇 勝野仁一郎

二〇〇〇 猪瀬 ナカ

一〇〇〇 玉田 タケ

〇〇〇〇 神山 さく

〇〇〇〇 弟 木村恒三郎

〇〇〇〇 弟 菊地 彦臣

〇〇〇〇 父 田島 幸松

〇〇〇〇 兄 田名網武夫

〇〇〇〇 竹林 高男

秋田県

二〇〇〇 松木 孝子

一〇〇〇 卯花要一郎

八〇〇〇 熊谷サダヨ

六五〇〇 兄 小室舜司郎

一〇〇〇〇 妻 奥山 キノ

〇〇〇〇 姉 佐藤 敏子

〇〇〇〇 兄 関山富一郎

〇〇〇〇 妻 相馬 ツギ

〇〇〇〇 妻 大場美津子

〇〇〇〇 妻 丹野 アサ

〇〇〇〇 妻 渡辺 ミノ

〇〇〇〇 妻 赤塚 美正

〇〇〇〇 妻 大泉 時子

〇〇〇〇 妻 三浦 一郎

〇〇〇〇 妻 富田 ミツ

〇〇〇〇 妻 吉田 ハル

〇〇〇〇 妻 石橋 サツキ

〇〇〇〇 妻 石橋 節子

〇〇〇〇 妻 馬上一 嶺雄

〇〇〇〇 妻 吉津みどり

〇〇〇〇 妻 若狭 明光

〇〇〇〇 妻 大熊 もと

〇〇〇〇 妻 宮内 はつ

〇〇〇〇 妻 遠峰 軍治

〇〇〇〇 妻 堀江 誠一

八〇〇〇 妻 増沢カオル

三〇〇〇 妻 勝野仁一郎

二〇〇〇 妻 猪瀬 ナカ

一〇〇〇 妻 玉田 タケ

〇〇〇〇 妻 神山 さく

〇〇〇〇 弟 木村恒三郎

〇〇〇〇 弟 菊地 彦臣

〇〇〇〇 父 田島 幸松

〇〇〇〇 兄 田名網武夫

〇〇〇〇 竹林 高男

〇〇〇〇 妻 松木 孝子

◇東京都										◇千葉県										◇埼玉県										◇群馬県									
妻	妻	兄	妻	弟	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	父	父	母	兄	兄	兄	兄	兄	兄	兄
小泉	黒川	谷沢	為良隆之助	高安	倉田	及川	岩佐とみ子	長沢	川間	大森	広原	野沢	佐藤	石川	芳賀	毛利	桜井	星野	津久井	福島	長谷部	菅井	岡安	大野	近藤	幸島	小谷	小田	藤田	柴田	藤田	井野	滝沢	森	園部	永井			
文江	誠	英子	コト	茂弘	次郎	つね	その	つね	すず	ちよ	きみ	きみ	志げ	一正	重子	艶子	子	子	子	レイ	なを	せい子	宏	み子	マエ	敬一	中せい	原利子	きよせ	貞子	謙次郎	彦太郎	ゆきえ	重太	清				
二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇			
母	母	母	兄	弟	妻	妻	長女	妻	兄	兄	長女	長女	妻	母	母	弟	弟	妻	兄	妻	母	妻	弟	妹	母	父	弟	弟	妻	弟	弟	妻	妻	妻	妻				
小泉	石田	吉田	森川	菅沼	鈴木	齊藤	山口	小野	小島	飯島	荒木	菅沼	吉田	菅沼	小林	三ツ木	橋口	中村	内海	木村	水野	間々	日野	番場	林	徳田	土岐	高橋	浄永	佐藤	大高	岩浪	佐竹	井上					
タケ	トシ	いそ	幸清	昇	幸江	裕子	リユ	章	老	常子	代子	子	子	子	清	次	昭利	久代	軍三	久子	はな	やす	楽平	信子	千代	順一	達雄	鎮夫	宗五	吉郎	よ子	エス	賀雄	喜美					
二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇			
◇神奈川										◇新潟										◇福井																			
母	妻	姉	兄	妻	妻	母	妻	弟	妹	母	兄	弟	妹	兄	妻	弟	妹	兄	妻	弟	妹	妻	兄	妻	弟	妹	妻	弟	弟	妻	兄	妻	兄	妻	兄				
齊藤	岡村	沖立	岩瀬	伊沢	山本	水上	川名	三村	佐藤	西森	千野	谷	渋谷	熊沢	大槻	今村	井上	助川	佐藤	岡野	柳田	嶋田	佐藤	片山	吉松	松井	原	鳥居	柴崎	江間	内田	伊藤	石橋	荒井	中村				
リウ	てふ	キヨ	石松	ヤス	和子	文子	福松	とも	サツキ	サツ子	ます子	達也	良雄	静子	一郎	美代	ユカ	富子	貞子	正文	リ彦	正彦	登志	計	貞子	直一	富子	理喜	二郎	淑子	ますの	三	福居	みさを	耕太郎				
三〇〇〇〇〇	四〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇			
弟	妻	兄	妻	妻	母	長女	姉	妻	妻	妻	母	兄	兄	兄	妻	母	妻	兄	妻	母	妻	兄	妻	弟	妹	妻	母	母	母	母	兄	妻	兄	妻	兄				
岡田	林	土屋	藤木	広島	棚橋	矢野	寺島	村根	柴田	本多	竹林	坂井	佐藤	後藤	小林	河崎	安藤	高橋	松丸	片桐	青木	高林	藤田	高林	渋谷	平松	露木	田中	関根	鈴木	鈴木	呉地	遠藤	稲村					
松次	初子	庄三	ハナ	富子	昭二	栄治	きよ	光栄	美子	久江	房江	繁男	フジ	キヨ	正道	通宣	梅子	ユシ	イキ	さき	謹次	セキ	ヨリ	芳夫	菊枝	千鶴	テツ	はつ	リン	一衛	芳子	かつ	か	つ					
三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇				
妻	妻	父	妻	妻	兄	妻	妻	母	兄	妻	妻	兄	兄	兄	妻	母	妻	兄	妻	妻	妻	兄	妻	弟	妹	妻	父	弟	母	姉	妹	妻	妻	妻	妻				
三好	松下	黒田	赤堀	山田	服部	土屋	後藤	山田	竹中	寺沢	渡辺	吉田	鳥本	宮下	宮下	末松	勝野	岡島	伊藤	田中	牛山	及川	神田	黒川	柳沢	堂東	田賀	三輪	大島	吉光	寺西	西と	きわ	わ					
浜子	竜二	トシ	三郎	とよ	子	まさ子	行雄	八重	ユキ	美代	三三	綾	みさを	礼子	真夫	すみへ	一郎	正人	光子	光子	光子	よね	環	正文	清信	秀	太郎	つげ	乃	澄子	澄子	澄子	澄子	澄子					

愛知県		三重県		滋賀県		京都府		大阪府		兵庫県	
一〇〇〇〇	五〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	七五〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	五〇〇〇〇
妻	妻	妹	妹	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	弟
飯田たつ子	川越コウ子	荒木 すへ	伊藤 みね	近沢 あき	正野 きぬ	高崎 シズ	稲積 や江	川本ユキエ	中根 杉子	長谷川田鶴	八木 さよ
五〇〇〇〇	三〇〇〇〇	二〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻
大塚かね	山田 あき	大原 儀一	川村 正一	吉田ひさ子	安藤 昌子	荒木 昌子	近沢 あき	正野 きぬ	高崎 シズ	稲積 や江	川本ユキエ
三〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻
米倉ぬい	北野ちとせ	北野ちとせ	米倉ぬい	飯田たつ子	川越コウ子	川越コウ子	川越コウ子	川越コウ子	川越コウ子	川越コウ子	川越コウ子
一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻
飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子
五〇〇〇〇	三〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻
飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子
一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻
飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子
一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻
飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子	飯田たつ子

本部
郵便番号一五四
東京都世田谷区野沢
三丁目十一番三号
マーシャル方面遺族会
電話(東京)四二四三〇〇番